

●七草摘みの前日準備 5日(土)の午前9時30分事務局会議を開き新年初顔合わせ、七草摘みについて協議しました。13時に農園に集合を約束。教育棟の清掃、掲示板の張り出し、机やいすの点検、各種七草の生育地の確認、5時ごろまで準備に精を出しました。特に参加型で行うという方針に基づいて、七草粥を食べていただくためのお箸を製作してもらうことになり、若竹の切り出し、そして適正な長さに切り分け、太さを決めて割り出しを行い、トゲが刺さらないように表面加工を行いました。そしてお椀を50個切りそろえ、里山の会の焼き印で刻印を入れました。物事は計画したとおりには順調には進まず、出来上がったのは16時をかなり過ぎていました。前日準備にかかわっていただきました皆様、寒さ厳しい所、頑張ってくださいありがとうございました。

●新年初事務局会議 5日 9時30分開始 播川理事長を初め深田大村有田金田大釜森島青代山村等の顔が揃いました。一年の計は元旦にありとは昔からの言い伝えで、物事の最初に概略や大筋・目的を定めておくことが大切であるとの意味だそうです。即ちグループや団体の場合ならば動き出すとなかなか原点には立ち戻れない難しいものであります。特に今年は中心になって物事を推進してこられた幹部が83才となり、これ以上無理強いとは不可能と判断しなければならない状況で大きな難題を抱える新年です。他にこれに類する課題を耳にすることが伝わってきております。難題を抱えた新年の門出でもあります。会員各位もちろん社員各位の心構えをしっかりと押さえていただきますようお願いいたします。会計事務についてはホームページの送信と交信を担当していただいております白木さんの知人の村上さんがパソコンへの伝票の打ち込み役を引き受けていただき順調に17年度の打ち込みをいただいております。一部の課題への対応を行なって来ていますが、今抱えています課題については暗中模索という状況です。新年の出発に当たって一層のご協力をお願い致します。

●七草摘みと七草粥の取組 6日 やましる里山の会が発足して今年は23年を迎えることになります。そしてこの七草摘みや七草粥を食するのは20回を数えることになります。最初のころは京田辺市の野原を歩きましたが、木津川堤防での植物観察を通じて浜新田、神矢樋門付近を主な会場として取り組みました。ここでは大型テントの設置が雨天対策として必要で、準備がかなり大掛かりになります。そして運動公園での火気の扱いが問題になり、山城大橋の上流の広場に移り、4・5年前、里山農園に教育棟が完成し、天候の心配なく開催が可能になり、会場を固定化しています。里山農園では七草の全種類を揃えることが出来ますので、初心者にとっても、ベテランにとっても、短時間に学習ができますので、重宝しています。今年は41名(昨年24名)と大勢の参加がありました。子どもたちも11名と多く随分と賑やかでした。有田さんと石川さんは鶏を持ち込んでこられて、随分と人気がありました。おかゆを召し上がる竹のお椀には、里山の会の焼き印が押され、趣があります。みんなの囃子言葉と竹片での拍子音で随分と賑やかに七草を子どもたちに刻んでもらいました。みじん切りに刻んでおかゆに入れ、少し温めて食しました。ことしのおかゆは特別に美味しく七草粥や芋粥、黒米粥の三つの鍋が食べつくされました。皆さん腹いっぱい御馳走になりました。お腹が満腹になったところで、全員で初声出しの時間で、「年の初めの〜…」の一月一日にハーモニーが響きました。続いて「あーたまを雲の上に出し〜・・・」と富士山を大きな声で歌い初めました。ここで閉会の言葉で締めくくり、都合のつく方にはぜひとも白土山への山登りをすすめました。健脚者は20分で、ゆっくり者は1時間だと案内したところ20数人の皆さんが参加されました。山を下りてこられたころには焼き芋がほっこり出来上がっていました。おいしい焼き芋をほおぼり、去りがたい心を残しながら散会しました。手ばかり個所も随分と見つかりました、おいしいおかゆと、焼きもち、焼きいもで満腹、歌で声出し、普賢寺の白土山にかかわる歴史を聞き、頭も刺激を受けた楽しいひと時でした。多くの皆様のご参集に感謝いたします。

●**新年のご挨拶にお尋ねしました。**7日午前9時に事務所を出発 2018年度には、これまでになく多くの皆さんと連携や協力関係がさらに強く結ばれることになりました。木津川希少種生育調査管理業務、中聖牛設置作業、里山農園の充実、地域力再生プロジェクト事業等国交省、京都大学、夏原グラント、京都府などとの事業展開に取り組んでいます。こうした皆さんのご協力とご支援をいただくことになりましたので、新年の表敬訪問を行いました。もちろん京田辺市役所の市長、教育長、農政課、街づくり課そして京都府山城北土木事務所、京都府山城教育局、京都大学防災研究所、国交省淀川河川事務所、河川レンジャー中央センターに改めてご挨拶を行い、新年の取組や、抱負及び要望をお伝えし懇談しました。

●**木津川堤防の刈草収集のお手伝いをお願いします。** 今年の11月に完了しておかなければなりませんでした。中聖牛の取組によって、すっかり遅れてしまいました。12月に15000㎡を刈り終えることが出来ました。刈り取った草の集積と運び出し作業が残りましたので、新年早々作業を行います。目算ですが32人区の作業量となります。初日を12日(土)10時から開始します。集合は恭仁大橋(木津川市加茂町)の木津川左岸の公園にご集合をお願いします。2時間の作業で12時終了と予定しています。参加人数がおおくなれば、作業場所はかなりありますので、分散して行きます。ご参加の場合は作業場所が堤防の斜面なので、スリップ防止のために京田辺市のダイキでスパイク長靴の購入をお願いします。各人の寸法に違いがありますので、大きすぎなくしっかりフィットするものを選んでください。作業受付時に代金をお支払いさせていただきます(3200円程度です)運動靴ではダメです。現地集合ですので、時間に遅れないようお願いいたします。

●**初夢について** 一年の計は元旦にありとはよく聞かされ、何事も一が肝心と親からも先輩からも語り聞かされてきました。それと並んで初夢については、1富士 2鷹 3ナスビといわれてきました。続きの4番5番6番は何なのかと疑問に思いながら今日まで知らないまま来ました。七草摘みのときこの疑問が大きくなり調べてみると4番四方扇 5番たばこ 6番座頭ということらしいでした。インターネットで調べてみてください。三大敵討ちを言っているとの伝承もあるらしいです。曾我兄弟の敵討ち 四十七士の忠臣蔵伊賀の鍵屋の木村又兵衛の敵討ちの助っ人らしいという説もあるとのこと。

#### ●36回京都木津川マラソン大会の里山の会の取組について

35回までは、実行委員会のメンバーとして数多くの部署を担当してきました。いくつかの部署では年間を通じて保全管理が必要でした。また大会前には集中して作業が続きました。もちろん大会当日の作業も大変でした。翌日から始まる後始末は、簡単に終わるものではなく、残された看板1枚の処理にとられる時間は相当なもので、一度に済むものではありませんでした。こうした残務作業はどなたも引き受け手がなく、事務所のある里山が引き受けてきました。

36回からはこうした作業は有料化すべきで、ボランティア処理すべきでないと考え、清算方式で請求すべきでなく契約方式を提案しましたが、なじまないとのことで契約が結ばれなくて、大会への協力が不可能になりました。

なお36回大会については、従来の駐車場利用と選手輸送(タクシー)は、大会実行委員会とは無関係に、遠来からお越しになる選手が困られるということで、例年通り受け持つことになりました。この二つの作業に集中して大会への間接的な支援といたします。